

はままつ
浜松オープンでの成長

天王小・6 土屋 色葉

七月二十七日、浜松オープンというバドミントンの大会がありました。その浜松オープンでは、学んだことや課題、成長がいっぱい見分かりました。

AからIまでのリーグがあり、そのリーグで一位となったら決勝トーナメントで戦えます。リーグでの一試合目は、緊張と体育館の風でシャトルがうまく飛んでいかず、相手にいっぱい点数をあげてしまったけれど、風のえいきょうを受けないように、ぎりぎりをねらわず、ちよつと内側に打って勝つことができました。二試合目は、一試合目に調子がよくなかったので、次の試合に備えて技を試しながら戦いました。

三試合目は、強い子だし、勝たないと決勝トーナメントに行けないので、きん張が高まりました。相手は、ダブルスの戦い方でスマッシュ、ドライブ、プッシュとストレートに走ってきます。なので、私は、スマッシュが来たときには、低く強くクロスに打てば、相手はストレートに走ってくるからきくなと思いました。また、クロスに打つと、相手がラウンドに入って大体ストレートに打ってくるので、私にはラウンドに打って、ストレートを待つことにしました。そうしたら、ちゃんとストレートに来たので、次の返球で決めることができました。一試合目は十五対十二、二試合目は十五

対十三で勝ちぬくことができました。うれしかったです。リーグ表の一番上に私の名前があり、みんなに、

「色葉ちゃんなら決勝トーナメント行けるでしょ。」

と言われていたので、リーグを勝ちぬくことができてほっとしました。

いよいよ決勝トーナメントです。決勝トーナメントでは、強いIリーグで勝ち上がった子と戦うので、きん張しました。相手は、レシーブが強くてシャトルが落ちるか落ちないかのぎりぎりの球をとってこようとしてくるけれど、だますショットはなかったので、どんな球が返ってくるか分かりやすく、戦いやすい相手でした。なので、想像していたよりは、簡単に勝つことができました。

二回戦目は、これまでに負けたことがない相手だけれど、相手も強くなっているのので、戦いたくないと思っていました。試合だと思つて会場に来たけれど、戦う番号が書いてある紙と選手招集場所に張つてある紙の番号がずれていて、ちよつとの時間待つことになりました。相手は、同じ愛知県のチームで仲のいい子なので、試合前にいっしょにアップをしました。いよいよ試合になり、どきどきしながらコートに向かいました。相手は最初から強気で来ました。戦っているとき、相手は、冷静でどんな球を打つてもいいねいに私のコートに入れてきました。私は、ていねいに打たれた球が拾えなかったり、冷静さがなくなり、チャンス球をネットにかけてしまったりして、ミスが出ました。あせりも出て、考えられなくなり、ずつといっしょの戦い方になってしまい、相手に返球がばれて負けてしまいました。すごくくやくしくて、こっそり泣きました。でも、まだ三位決定戦があるので、決勝トーナメントの二試合目みたいになら

ないように気をつけてのぞきました。試合の前に先生から、「後に打ちすぎているから、ヘアピンも使ったりして前に落とす球も入れて。」

と言われました。試合が始まり、私は、相手の後ろをせめた方が決まると思っていたので、最初は後ろばかりに打っていました。すると先生に、

「ネット前へのこうげきもしろ。」

と注意されたので、前にも入れるようになりました。前もせめるようにしたら、次のショットもよく決まるようになりました。やはり、戦い方を増やすことが大事なんだなと思いました。この試合は、大会の最後の方の試合だったので、仲のいいチームの子が応援に来てくれました。ちがうチームなのに応援に来てくれてとてもうれしかったです。

この大会で私が成長したと思うところは、レシーブ、プッシュ、サーブです。プッシュは前までネットにかけるミスが多かったのが、最近では、相手が打ちにくいように高くコートいっぱいにつくことができました。レシーブでも、前より多くシャトルを拾えるようになり、ラリーを前よりも長く続けられるようになったと思います。

反対に、できなかったところは、戦い方を試合の中で変えること、一球一球、ゆかに落ちるまであきらめない気持ちを持ち続けること、手足の細かい動きです。それから、試合前に時間が少し空くことになり、きん張感が途切れてしまいました。他にも、二回戦目の時に、戦い方がずつと同じになってしまい、相手に気づかれてしまったので、戦い方を変えることができるようにした方がいいと思います。戦い方を気づかれないようにするには、ずっと同じところで

はなく、ちがう方向に打つてみたり、打ち方を変えずに相手をだますようなショットを打つてみたり、球に対してスピードを変えて前に入ったりするなど、いろいろな方法があります。練習は、たくさんしているはずなのに、この大会では使うことができなかったのも、次のシングルの試合に向けて、ふだんの練習から試していこうと思います。